

泉大津駅が「環境に配慮した駅」として生まれ変わります 「太陽光発電システム」を1月25日(火)に設置完了

南海電鉄（社長：亙 信二）では、経営計画「堅進126計画」の基本方針の1つに「『環境保全』のための取組み強化」を掲げています。同方針の一環として、現在泉大津駅で高架化工事とあわせて低環境負荷の駅設備の導入を進めています。

そしてこの度、同駅に**太陽光発電システムの設置が完成し、1月25日（火）から稼働を開始**します。

当社が駅に太陽光発電システムを導入するのは、南海本線・泉佐野駅に続いて2駅目。年間約71,000kWhの発電量を見込んでおり、同駅のエレベーターやエスカレーター、空調機、照明などの電力として活用します。また今後も、平成24年夏頃の完成予定を目指して、当社駅施設で初となる雨水利用システムや、自己発電機能付き節水型自動水栓、節水型トイレを設置するとともに、一部の駅で導入して節水効果を得ている無水小便器などを設置し、「環境に配慮した駅」としてふさわしい駅づくりを進めていきます。

詳細は次ページのとおりです。



環境に配慮した駅として生まれ変わる「泉大津駅」

1. 太陽光発電システムについて

(1) 設置場所

泉大津駅下りホームの屋根および天窓

(2) 最大出力および年間発電量（予測）

設置場所	最大出力(kWh)	年間発電量(kWh)
屋根	66.9	65,000
天窓	6.4	6,000
合計	73.3	71,000

(3) CO₂ 排出削減量（予測）

年間、約25.5 t

※スギの木に換算すると、約1,820本の植林に相当。

※石油に換算すると、200ℓのドラム缶92缶削減に相当。

(4) 発電電力の供給先

①屋根部

エレベーター、エスカレーター、空調機など

②天窓

コンコースおよびホームの照明など

(5) 稼働開始日

平成23年1月25日（火）

(6) その他

当社は同設備の導入にあたり、一般社団法人新エネルギー導入促進協議会から、新エネルギー等事業者支援対策事業の一環として助成を得ています。

2. 今後導入を進める設備について

(1) 雨水利用システム

上屋に降った雨水を貯水し、トイレの洗浄水として利用します。年間、約780 m³の節水を見込んでいます。

(2) 自己発電機能付き節水型自動水栓

センサーで人の手を感知し、自動で水を出し止めする水栓をトイレに設置します。自動制御に必要な電力は、給水時の水流によって自己発電します。また、年間約290 m³の節水を見込んでいます。

(3) 節水型トイレ

女性用トイレと男性用大便器に、一般品の半分以下の水量で洗浄できる節水型トイレを設置します。1回の使用につき約4ℓの節水ができます。

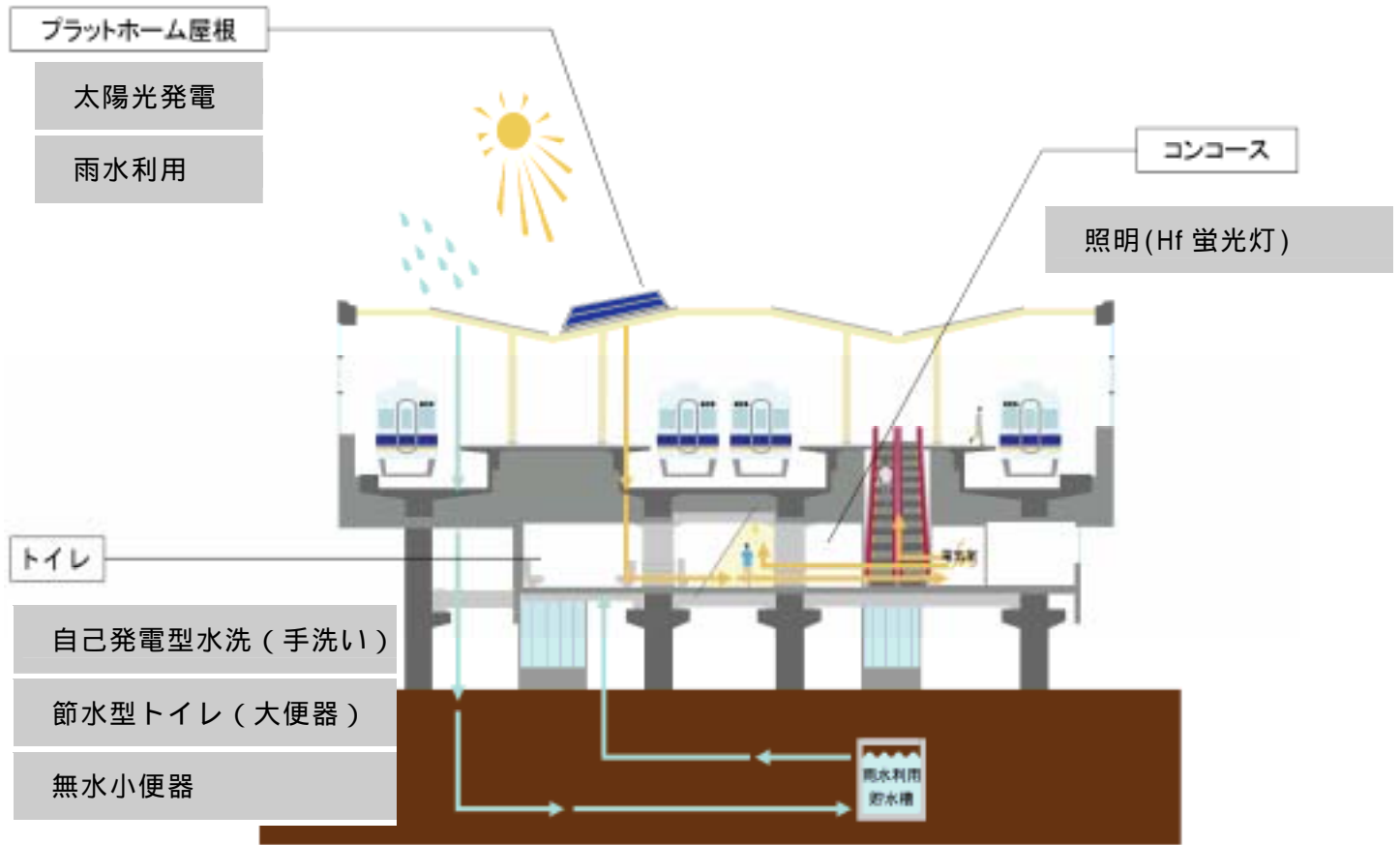
(4) 無水小便器

男性用小便器と小児用小便器に洗浄の水を使用しない男性用無水小便器を設置します。1回の使用につき約2ℓの節水ができます。

(5) H f 蛍光灯

コンコースに通常の蛍光灯と比べて高効率なH f 蛍光灯を設置します。年間約6万kWhの節電を見込んでいます。

【参 考】泉大津駅での「環境に配慮した駅づくり」の概況



以 上

